

平成29年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

| | | | | | | |
|---|---|----------|---|--|--|--|
| 実習タイトル | 【佐渡・森里海の連携学コース】森里海をつなぐ野外生態学実習 | | | | | |
| 実習内容 | | | | | | |
| <p>日本海に浮かぶ佐渡島は、森林・農地・海とそれらをつなぐ川とがコンパクトにまとまっており、森里海の生態系やそのつながりを短期間の実習で学ぶことができる全国的にも貴重なフィールドである。また、トキやサドガエルなど佐渡でしか見られない動物も観察できる。</p> <p>本実習では、新潟大学の農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション（演習林）と朱鷺・自然再生学研究センターの教員の協力の下で、佐渡島にある森・里・海の様々な環境でフィールドワーク（野外調査）を行い、それぞれの場所における生物群集の特徴や生態系のつながり、そして人間の社会活動と生物との関係について学ぶ。</p> | | | | | | |
| <p><u>森（新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション・演習林）</u></p> <p>1) 演習林での人工林、針広混交林の観察、2) スギ天然林や風衝地の植生観察、 3) 牛の林間放牧による植生変化の観察</p> | | | | | | |
| <p><u>里（新潟大学研究推進機構朱鷺・自然再生学研究センター）</u></p> <p>1) トキの野生復帰と里山に関する講義、2) 中山間地の棚田跡地を利用した自然再生現場の見学、3) 野生復帰したトキの生息環境の見学</p> | | | | | | |
| <p><u>海（新潟大学理学部附属臨海実験所）</u></p> <p>1) シュノーケリングによる磯生物の観察・採集、2) 河川での魚類採集、 3) 手網を用いた岸壁での夜行性海洋生物の灯火採集、4) 採集した生物の観察・分類・同定</p> | | | | | | |
| 実習内容キーワード | トキ、環境、里山、天然林、人と自然との関わり、生態系、多様性、磯採集、シュノーケリング | | | | | |
| 担当教員氏名・所属・役職名 | 安東宏徳（臨海実験所・教授）、飯田碧（臨海実験所・助教）、北橋隆史（臨海実験所・特任助教） | | | | | |
| 協力教員氏名・所属・役職名 | 演習林および朱鷺・自然再生学研究センター教員 他に1名の外部講師を任用予定。 | | | | | |
| 対象学生・学年 | 国公私立大学の学部1~4年生 (大学院生も可) | 開講期間 | H29年9/5（火）~9/9（土） 4泊5日 | | | |
| 開講大学・施設名 | 新潟大学・理学部附属臨海実験所 | | | | | |
| 施設の住所 | 〒952-2135 新潟県佐渡市達者 87 | | | | | |
| 電話 | 0259-75-2012 | F a x | 0259-75-2870 | | | |
| e-mail | hando311@cc.niigata-u.ac.jp | Web Site | http://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/sadomarine/ | | | |
| 交通案内 | 新潟港から、佐渡汽船（カーフェリーまたはジェットフォイル）を利用して佐渡島に渡る。フェリー乗り場である佐渡両津港にて集合。両津港から臨海実験所までの移動は、実験所がチャーターバスを用意する（無料）。直江津ー小木航路を利用したい実習生については、事前連絡があれば公用車で小木港まで送迎を行う。 | | | | | |
| 費用 | 実習期間中の食費および寝具洗濯代：約10,000円 | | | | | |
| 授業科目名 | 臨海実習 II | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 定員数 | 10名 | | | |
| 授業料の徴収について | 授業料は徴収しない。 | | | | | |
| 受講生選抜基準と申し込み締め切り | 原則として先着順。締め切り日はH29年7/28（金）。 | | | | | |
| 選抜結果連絡法 | 書面とメールにより本人に直接連絡する。 | | | | | |